

# 仙山圏交通網の充実に向けた仙山線の利用促進及び利便性向上プロジェクト 概要版

## 検討経緯

**【検討経緯・目的】**  
山形市と仙台市がそれぞれの有する資源を有効に活用しながら連携・協力することによって、両市の活力を高め、持続的な発展を図ることを目的として、平成28年11月に山形市と仙台市間で連携協定を締結。連携する分野のひとつに「交通ネットワークに関する分野」を掲げ、仙山圏の交通網の整備に向けた検討を開始。

**平成28年度（仙山圏交通網の整備調査：山形市）**

- 既存資料、基礎データの整理 ● 仙山圏交通網の現状と課題の整理
- 仙山圏交流連携促進に向けた道路交通網整備案のメニュー出し
- 仙山線の機能強化策（ハード・ソフト）のメニュー出し

**平成29年度（勉強会）**

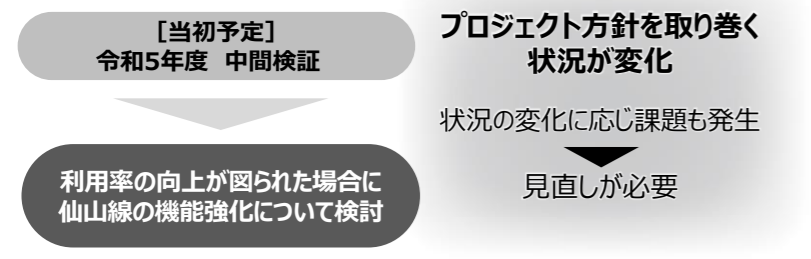
- 仙山線の利用促進及び利便性向上に関する勉強会の開催
- 利用促進施策（主にソフト施策）、課題・実現性について意見交換

**平成30年度（勉強会）**

- 勉強会にて、施策の絞り込みや優先順位の検討
- 仙山圏交通網の充実に向けた仙山線の利用促進及び利便性向上プロジェクト方針を決定

**令和元年度～令和3年度（勉強会）**

- 短期的取組み（3年）を実施
- 年1～2回の勉強会を通して、短期的取組みの進捗状況及び現状を踏まえた次年度以降の取組み内容を確認
- 中間検証の方法の検討



## プロジェクト方針を取り巻く状況の変化と課題（令和元年度～令和3年度）

<p><b>上位計画の見直し</b></p> <p>山形市発展計画2025策定(R2.3)、山形市地域公共交通計画策定(R3.3)</p> <p>等</p> <p>上位計画に即した公共交通の取組みが必要</p>	<p><b>地域連携ICカード導入</b></p> <p>山形県内の路線バスに地域連携ICカード(チェリカ)の導入が決定(R4.5サービスイン)</p> <p>地域連携ICカードを活用した具体的な取組みの検討が必要</p>	<p><b>コロナ時代</b></p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大(R2～)にともない、観光や通勤など移動の仕方が大きく変化</p> <p>特に観光面で広報活動、観光の内容等、コロナ時代への対応が必要</p>
<p><b>MaaS</b></p> <p>全国的にMaaSの取組みが進み、TOHOKU MaaSや仙台MaaSが稼働(R3～)</p> <p>MaaSの導入や既存MaaSとの連携によるシームレスな交通サービスが必要</p>	<p><b>PT調査結果</b></p> <p>パーソナルトリップ調査の結果から、山形-仙台間の交通現況が明らかに(R1～)</p> <p>通勤や休日の移動において、課題や有効な取組みが見えてきた</p>	<p><b>類似都市圏比較</b></p> <p>鉄道分担率が高い都市圏ほど通勤に関する交流が活発であることが確認された(R2)</p> <p>仙山線の利用促進と機能強化を両輪として双方の実現を目指していくことが必要</p>

## 短期的取組み（令和元年度～令和3年度）の主な実施状況

**広報PRプロジェクト**

- ・ 広報やまがたや各種広報媒体での利用促進PR
- ・ 仙台市交通フェスタでの利用促進PR活動
- ・ 山形市職員を対象としたノーマイカー通勤を試行実施

**駅及び周辺環境整備プロジェクト**

- ・ 北山形駅のバリアフリー化（エレベーターや多機能トイレ整備）を推進
- ・ 日本遺産（山寺が支えた紅花文化）関連の環境整備（山寺地内への紅花プランター設置や、紅花文化を紹介する映像放映等）を実施

**観光マッププロジェクト**

- ・ 仙山線マップ（日本語版・英語版）を作成・配布

**乗車券関連プロジェクト**

- ・ 路線バスやコミュニティバスへの交通系ICカードの導入に向けた検討・協議を実施（R4導入予定）
- ・ 仙山線WきっぷのPRを実施

**観光イベントプロジェクト**

- ・ インスタグラムを用いたフォトコンテストを実施
- ・ 仙山線臨時列車を運行
- ・ 仙山線臨時列車の運行に合わせてイベントを開催
- ・ 仙山線を活用した山寺・作並観光のモニターツアーを実施

**二次交通の確保プロジェクト**

- ・ 楯山駅までのタクシーなどを活用した新たな二次交通の導入を検討
- ・ 羽前千歳駅を中心とした新たな循環バスの導入を検討
- ・ 山寺マルシェの開催に合わせて、大型河川敷駐車場と観光拠点間のシャトルを実証運行

## 令和4年度以降の新たなプロジェクト

- 仙山生活圏の交流促進の実現に向けた仙山線の将来像として「仙山線の機能強化及び利用促進・利便性向上による仙山生活圏の交流促進と安全性向上」を掲げ、仙山線の機能強化と利用促進・利便性向上を両輪に、双方の実現を目指していく。
- 将来像の実現に向けて、今後5年間の取組みの基本方針・目標を設定し、目標達成のための取組を推進する。
- 各取組みの実施状況や進捗状況を年度ごとに把握する。また、目標に対する評価指標を設定し、目標の達成状況を評価する。

## 目指すべき仙山線の将来像

仙山線は、山形市と仙台市の両市民が日常的に都市間を行き来し、互いの都市の機能を有効に活用し合いながら生活する「仙山生活圏」の移動を支えるインフラであることから、目指すべき将来像を以下のように設定します。

**目指すべき仙山線の将来像**

**仙山線の機能強化、利用促進・利便性向上による仙山生活圏の交流促進と安全性の向上**

東北最大の都市仙台市と山形県都である山形市を結ぶ仙山線の利便性向上を図ることにより利用を促進し、日常生活や観光、ビジネス等各分野での交流の活発化を目指します。

また、運休・遅延の抑制や輸送力強化など機能向上を図ることにより、仙山生活圏の安定的な輸送、リダンダンシー機能の確保を目指します。

## 基本方針と基本方針の実現に向けた目標

目指すべき将来像の実現に向けて、今後5年間の基本方針、基本方針の実現に向けた目標を以下のように掲げます。

<p><b>今後5年間の基本方針</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>両市民のニーズにフィットした仙山線の日常利用の促進</li> <li>都市間移動の大動脈としての仙山線の機能強化</li> <li>観光資源と仙山線の連携による地域の魅力の最大化</li> </ul>	<p>① 仙山線各駅周辺での地域内交通の充実による都市内移動の実現</p>	<p>取組1-1 バスを活用した地域内交通の導入</p> <p>取組1-2 タクシー等を活用した地域内交通の導入</p> <p>取組1-3 自転車を活用した地域内交通の導入</p>
	<p>② MaaS導入による仙山線の利用環境の向上</p>	<p>取組2 MaaS導入による仙山線の利便性向上</p>
	<p>③ 仙山線の安定性・速達性・快適性向上のための鉄道機能強化</p>	<p>取組3-1 鉄道駅のバリアフリー化</p> <p>取組3-2 駅前広場等の整備</p> <p>取組3-3 交通系ICカード対応駅の拡大</p> <p>取組3-4 他路線と仙山線の接続向上</p> <p>取組3-5 仙山線の増便</p>
	<p>④ 仙山線沿線の観光振興と連携した仙山線利用機会の創出</p>	<p>取組4-1 山形・仙台をつなぐ広域エリアでの観光振興</p> <p>取組4-2 観光イベントの開催</p> <p>取組4-3 仙山線沿線観光マップの配布・配信</p> <p>取組4-4 門前の機能の充実と賑わいあふれる沿道景観の創出</p>
	<p>⑤ 仙山線利用の意識醸成</p>	<p>取組5 仙山線利用の意識醸成</p>

## 目標を達成するための取組み

### 目標① 仙山線各駅周辺での地域内交通の充実による都市内移動の実現

#### 取組1-1 バスを活用した地域内交通の導入

##### (1) 北部循環バス（(仮称)北くるりん）の導入

- ①具体的な運行ルートダイヤ、運賃などを検討し、実証実験を経て導入を目指す。
- ②市北部の拠点・総合病院等を結ぶ循環バスを導入する。

#### 取組1-2 タクシー等を活用した地域内交通の導入

##### (1) 【山寺駅】観光系地域内交通の導入《新規》

- ①山寺観光協会や地元自治会との意見交換を踏まえながら、河川敷の大型駐車場や山寺駅を起点として、山寺地内の観光拠点を結ぶ観光系地域内交通の導入を検討する。

##### (2) 【楯山駅】鉄道駅との結節に着目した交通サービスの導入

- ①楯山駅での中心市街地や仙台市方面への鉄道との結節も視野に、タクシー等を活用した新たな地域公共交通を導入する。

#### 取組1-3 自転車を活用した地域内交通の導入

##### (1) コミュニティサイクルの導入《新規》

- ①鉄道や高速バスによる通勤・通学者、観光客などの移動環境の向上を図るため、山形駅・山寺駅付近及び中心市街地等にコミュニティサイクルを導入する。
- ②実証実験の検証を踏まえ、その他の市内各鉄道駅付近等への導入について検討し順次導入する。

### 目標③ 仙山線の安全性・速達性・快適性向上のための鉄道機能強化

#### 取組3-1 鉄道駅のバリアフリー化

##### (1) 北山形駅バリアフリー化整備事業の推進

- ①北山形駅のホームにエレベーターを整備する。（北山形駅構内の移動円滑化経路の整備を含む）

##### (2) 山寺駅等のバリアフリー化《拡充》

- ①観光需要が高い山寺駅などのバリアフリー化について鉄道事業者と協議しながら検討する。

#### 取組3-2 駅前広場等の整備

##### (1) 交通結節点（駅前広場等）の整備《新規》

- ①交通結節点整備方針に基づき、交通結節点として駅前広場等に必要な機能を整備する。
- ②鉄道駅までのアクセス性の向上のため、関係機関と連携しながらアクセス道路や消雪道路などの基盤整備を検討する。

#### 取組3-3 交通系ICカード対応駅の拡大

##### (1) 交通系ICカード対応駅の拡大《拡充》

- ①令和4年度当初に路線バス及びベニちゃんバス（東くるりん・西くるりん）において、交通系ICカードの利用を開始することを踏まえ、鉄道と路線バス等での交通系ICカードの相互利用による利便性向上を図るために、交通系ICカード未対応の鉄道駅改札の対応化について、鉄道事業者と協議しながら検討する。

#### 取組3-4 他路線と仙山線の接続向上

##### (1) 奥羽本線や左沢線と仙山線の接続向上《拡充》

- ①奥羽本線（羽前千歳駅）や左沢線（北山形駅）との乗り継ぎの待ち時間の短縮が図られるよう、ダイヤ編成やその他の対応策について、鉄道事業者と協議しながら検討する。

#### 取組3-5 仙山線の増便

##### (1) 仙山線（山形～愛子間）の増便《拡充》

- ①愛子駅での乗り換えを伴うが、山形駅～仙台駅間の運行便数の増加を図るための山形駅～愛子駅の増便について、鉄道事業者と協議しながら検討する。

### 目標② MaaS導入による仙山線の利用環境の向上

#### 取組2 MaaS導入による仙山線の利便性向上

##### (1) 交通系ICカードの利用拡大

- ①令和4年度当初に路線バス及びベニちゃんバス（東くるりん・西くるりん）において、交通系ICカードの利用を開始することを踏まえ、交通系ICカードの普及啓発を実施し利用を拡大する。

##### (2) コミュニティサイクルの導入《新規》（再掲）

- ①鉄道や高速バスによる通勤・通学者、観光客などの移動環境の向上を図るため、山形駅・山寺駅付近及び中心市街地等にコミュニティサイクルを導入する。
- ②実証実験の検証を踏まえ、その他の市内各鉄道駅付近等への導入について検討し順次導入する。

##### (3) 鉄道と高速バスの連携チケット発行

- ①山形・仙台の都市間移動について、目的や時間に応じて移動手段が選択できるよう、鉄道（仙山線）と高速バスの相互利用チケットの発行について関係機関と検討を行う。

##### (4) TOHOKU MaaSや仙台MaaS等との連携《新規》

- ①TOHOKU MaaS（JR東日本）や仙台MaaS（仙台市）等との連携による山形・仙台の都市間移動の利便性向上について関係機関と検討を行う。

### 目標④ 仙山線沿線の観光振興と連携した仙山線利用機会の創出

#### 取組4-1 山形・仙台をつなぐ広域エリアでの観光振興

##### (1) 仙山線を活用した旅行商品の造成《新規》

- ①令和3年度に実施したモニターツアーを踏まえ、仙山線を活用した作並温泉への宿泊と山寺・作並の観光コンテンツを中心とした仙山線を活用した旅行商品の造成を検討する。
- ②山寺・天童・作並・秋保の4つのエリアを対象とした広域旅行商品の造成を検討する。
- ③山形連携中枢都市圏の市町と連携し、地域ブランディングの向上を図りながら広域周遊について検討する。

#### 取組4-2 観光イベントの開催

##### (1) イベント列車の運行

- ①仙山線イベント列車を運行する。
- ②仙山線イベント列車の運行に合わせて作並駅感謝祭を開催する。

##### (2) 日本遺産（山寺が支えた紅花文化）関連イベントの実施

- ①日本遺産（山寺が支えた紅花文化）の紹介映像の放映や山寺地内に紅花プランターを設置し山寺の魅力を発信する。
- ②山寺地内の紅花栽培地の観光地としての受入環境整備に合わせてランドオペレーターやガイド育成を行い、着地型旅行商品を造成する。
- ③日本遺産の構成市町と連携し、広域周遊について検討する。

#### 取組4-3 仙山線沿線観光マップの配布・配信

##### (1) 仙山線に関連するマップの配布・配信

- ①仙山線を利用した仙山圏の観光振興を促進するために、仙山線沿線の観光スポットや仙山線の魅力をとりまとめた仙山線マップ（日本語版・英語版）の配布を継続する。
- ②WEB媒体で仙山線に関するマップを発信するとともに、その効果を把握し、今後の施策への反映について検討する。

#### 取組4-4 門前の機能の充実と賑わいあふれる沿道景観の創出

##### (1) 駐車場や遊休不動産の活用による山寺への誘客促進と回遊性向上《新規》

- ①令和3年度に実施した門前町（山寺）の歩行者天国化による山寺マルシェの検証を踏まえ、山寺観光協会や地域住民と協議を行い、駐車場や遊休不動産の利活用（物販やイベントの開催等）を支援し誘客促進と回遊性向上を図る。

##### (2) 魅力ある景観形成の推進による山寺への誘客促進《新規》

- ①景観重点地区における景観形成事業を支援し、山寺地区固有の多様な魅力を守り・生かしながら、来訪者も住民も歩き・語り・楽しめる、人々で賑わう景観の創出を図る。

### 目標⑤ 仙山線利用の意識醸成

#### 取組5 仙山線利用の意識醸成

##### (1) 仙山線利用促進のPR

- ①広報やまがた等において公共交通の利用啓発を実施する。
- ②市職員を対象としたノーマイカー通勤を実施する。
- ③仙台市交通フェスタ等のイベントにおいて仙山線の利用啓発を実施する。
- ④大学等と連携し通学に利用可能な既存地域内交通の周知を実施する。
- ⑤既存のパスやきっぷ（せんだいまるごとパス、仙山線Wきっぷ等）について、様々な媒体をとおして活用に関する周知を実施する。
- ⑥イベント等の実施に際し、来訪者に対し事前の周知を行い、仙山線利用促進を図る。
- ⑦モビリティ・マネジメント等の取り組みである「せんだいスマート」を推進し、公共交通の利用促進を図る。

### プロジェクトの進捗管理

#### 【考え方】

プロジェクトの実施状況については、毎年把握します。その結果に応じて次年度以降の取組みの改善点を確認します。

目標の達成状況の評価については、5年に1度を基本とします。ただし、5年を待たずに途中年度で評価指標が得られる場合は、適宜評価指標の推移をモニタリングし取組み実施の参考とします。